

**【第249号 紙面案内】**

第2面 ……………理事会報告

第3・4面 ……全国研究大会参加記、工場見学記

第6面 ……………韓国経営教育学会への派遣募集

## 経営実践学の確立をめざして

会長 小椋 康宏

新年明けましておめでとうございます。戊子の年を迎え、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察申し上げます。

日本経営教育学会は1979年に設立されて以来、本年で29年を迎えることになりました。学会を取り巻く環境にも大きな変化が生じており、今日、再び学会の理念の統一が求められているのであります。

実・学一体の経営実践学は学会創設者故山城章の求めた経営学でありました。われわれ学会のメンバーは、経営学者であろうと経営実践家であろうと、この経営実践学である経営学の理念を学び、その経営学を究めることによって、現代の経営社会に貢献することになります。

さて、昨年は、アメリカ（シカゴ、セントルイス）をはじめヨーロッパ（スロヴェニア、クロアチア）および中国（大連、天津および青島）を訪れる機会がありました。世界の国々の勢いに大きな刺激を与えられました。経営のグローバル化のなかで、われわれは、日本型経営原理をそれぞれの領域のなかで世界に発信していくことが必要であると認識した次第です。

国内の学会を振り返ってみると、学会の全国研究大会第1日における企業見学は、日本企業の実際を知ることと同時に企業で活躍する経営者をはじめ経営実務家の生の経営実践を拝聴する機会であり、われわれにとってきわめて重要な役割を果たしております。会員の皆様におかれましては全国研究大会への参加はもちろんですが、是非、企業見学の方にも積極的に参加されることを望みます。加えて、第2日目以降における経営実践家の報告における問題提起は、今後の日本型経営を構築する手掛かりになっていると考えることができます。昨年の2回にわたる全国研究大会のなかでのパネル・ディスカッションは、研究交流の新しい形態として意義があったのではないかと思います。本年も2回、千葉商科大学と札幌大学で全国研究大会が開催されます。老若を問わず、経営学の学問に挑戦し続ける会員のみなさまの学会への活発な参加を期待しております。最後になりましたが、本年も学会の会員の皆様の研究との展開とご健康をお祈りし、新年のご挨拶といたします。

## 第2回理事会報告

平成19年11月22日(木)、高松大学 小会議室にて平成19年度第2回理事会が開催されました。以下その内容を報告します。

### 1. 全国研究大会の件

組織委員長より、第56回全国研究大会(高松大学)の申込状況等報告があった。また、今後、第57回全国研究大会が平成20年6月27日～29日に千葉商科大学、第58回大会が平成20年10月31日～11月2日に札幌大学、第59回全国研究大会が東洋大学にて開催されることが確認・了承された。

### 2. 30周年記念事業の件

学会発足30周年にあたり、第59回全国研究大会を記念大会とすること、また、数冊の書籍を刊行し、記念出版とすること、が会長より提案され、了承された。なお、詳細は今後検討していくこととした。

### 3. 会員の入退会の件

会員の入退会について総務委員長より報告があり、個人会員8名の入会、個人会員32名の退会が了承された。結果現在、個人会員810名、法人会員9社となった。

### 4. その他

- ①総務委員会より経営学関連学会連合会の状況について説明があった。
- ②組織委員会より第60回以降の全国研究大会会場校の募集について報告があった。
- ③会報委員会より会報発行の状況について報告があった。
- ③国際委員会より国際委員会のお手伝いいただけるボランティア個人および団体(大学)の募集がなされた。また、アメリカ経営学会経営教育部会派遣および韓国経営教育学会派遣の募集について報告があった。
- ④機関誌委員会よりジャーナル化の第1巻第1号進行状況の説明がなされ、第2号の募集がなされた。
- ⑤山城賞委員会より山城賞奨励賞対象の論文(紀要)の募集がなされた。
- ⑥関東・関西・中部・北海道・九州部会の部会報告および今後のスケジュールについて報告があり、承認された。

## 第56回全国研究大会 大会参加記

中島 浩行 (広島工業大学)

平成19年11月22日(木)から24日(土)にかけて高松大学で行われた第56回全国研究大会に、23日(金)から参加した。私は、本年度入会した新参加者で、6月に行われた青山学院大学での第55回全国研究大会に続いて2回目の参加である。

広島工業大学では、所属する情報学部で、情報処理技術者の教育をしている。このため、本学会で名刺交換をさせていただくと、「工学系から、珍しいですね」と言われることが多く、学生が描いてくれたイラスト入りの名刺を差し出すことも重なり、少し印象に残るようだ。

前回の研究大会でも感じたことだが、日本経営教育学会の研究大会は、報告や発表の後に行われる討論やディスカッションが充実していて驚いた。しっかりと時間が確保しており、発表者とコメンテータやフロアの方々が、活発に議論を交わされていたからである。ただ、初参加だった前回は、“フロア質問”される方が、質問前にあまり関係ない内容で演説されることに、「いつになったら質問が始まるのかなあ……」と、焦っていた。

しかし、2回目の参加となった今回は、その質問前の少し長めの演説を、「一つの発表」と捕らえると、興味深く拝聴できることに気がついた。そう考えると、“フロア質問”される方が、質問前にどのようなことを話されるか、“楽しみ”になってきたのである。24日の自由論題の発表では、用語の使途や区別についても、厳しい指摘が飛び交っていた。本稿は大会参加記なので、用語の使い分けが多少適切でなくても、ご容赦いただきたい。

私は、出張や旅行で知らない都市や街に行くと、なるべく時間を作って足で歩き回り、街の雰囲気を楽しむ、公共交通機関を利用して、感じたことを学生に伝えるようにしている。高松大学から高松駅まで歩いてみたが、道中にある手打ちうどんの安さに驚き、アーケード街の長さに「商店街のやる気」を感じた。この原稿は、帰途の瀬戸大橋線で、快速マリライナーの車内から見えるすばらしい夕日を見ながら考えたものだ。地方の良さが感じられる研究大会に、もっと沢山の方々に参加していただき、いろいろな方と交流できることを楽しみにしている。

### 機関誌投稿論文募集

機関誌委員長 森川 信男

機関誌への投稿論文を下記の要領で募集しています。会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

1. 原稿の受付

次号の機関誌(5月発行予定)への原稿は、1月31日(木)必着で学会事務局までお願いします。

2. 執筆要領

学会のホームページ(<http://www.j-keieikyoiku.jp>)トップページのinformationに掲載されている次のページをご参照ください。

## 第56回全国研究大会 企業見学記

札幌学院大学 早川 淑人

平成19年11月22日(木)、高松市の石丸製麺(株)(創業明治37年、石丸芳樹社長、従業員120名 <http://www.isimaru.co.jp>)を訪問し、工場視察、質疑応答、試食を行なった。

日本のうどんは大半をオーストラリア産小麦を使用し、国内麺用小麦自給率は約9%とのこと。同社では讃岐うどんのために開発された「さぬきの夢2000※」という香川県産小麦を100%使用した乾麺、半生麺の開発に成功し、今年3月2日には高円宮妃久子様も工場視察をされるなど、地域業界の雄としての経営を展開している。

創業以来「食べてみればわかります!」の試食営業を旨とし、本社・日産19万食の工場以下、全国に2営業所、4出張所を配している。西日本では半生麺、関東以北では乾麺が主流とのこと。北日本では飲食店への業務使用拡大を図りながら蕎麦文化圏への浸透にも取り組むなど地域に即した営業を展開している。どの従業員と目が合ってもクリーンルームのガラス向こうから、一度背筋を伸ばしてから微笑み会釈をするお客様への礼儀が印象的であった。経営戦略、社員教育、設備投資、商品開発、製造工程で発生する廃原材料の肥料・飼料化など多角的に学べる企業見学であった。

※旧系統名：香育7号 香川県農業試験場にて平成4年に西海173号(後のニシホナミ)を母とし、中国142号を父として交配を行い、翌年、そのF1(バイオテクノロジーを用いた一代交配種)を用いて交配した半数体育種法(メイズ法)により得た半数体倍個体から育成した品種(品種解説 石丸製麺(株)企画開発室)。

### ◇◇中部部会開催のご案内◇◇

中部部会では、3月8日(土)に第37回部会開催を予定いたしております。

●日 時：平成20年3月8日(土) 13:00~17:00

●場 所：愛知産業大学 名古屋サテライト

(名古屋法律経済専門学校 2号館内：駐車場はありません)

名古屋市熱田区金山町1-6-9 TEL:052-683-0021

(金山総合駅南口より南へ徒歩2分、サイプレスガーデンホテル手前)

●第1報告：清剛治氏(弘前大学大学院)「地域ラーニングシステムの創造によるエンジニア育成 —ソーシャルキャピタルとヒューマンキャピタル—」(コメンテータ未定)

●第2報告：村橋剛史氏(朝日大学)(論題、コメンテータ未定)

●第3報告：杉山三七男氏(静岡産業大学)「人間関係論の基礎の再検討 —『意図の設定』の可能性—」

コメンテータ：辻村宏和氏(中部大学)

●参加費：500円(なお、部会終了後、懇親会を開催します)

●問い合わせ先：中部部会長・辻村宏和 ([tsujimura@smile.ocn.ne.jp](mailto:tsujimura@smile.ocn.ne.jp))

次回開催は、平成20年11月中部大学名古屋キャンパスです。中部部会事務局では随時報告募集を行っております。報告を希望される方は、草田清章(愛知産業大学名古屋サテライト 名古屋市熱田区金山1-6-9 TEL:052-683-0021 e-mail:[kusada@asu.ac.jp](mailto:kusada@asu.ac.jp))までお知らせください。

## 第36回中部部会報告

谷 保範（愛知学院大学）

平成19年11月10日（土）、中部大学名古屋キャンパスにおいて第36回中部部会が開催された。遠方にもかかわらず、小椋康宏会長にもご出席いただき、総計23名の参加があった。

第一報告は、若山秋雄氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）による「企業人事の時代認識—『2010年を展望する人事戦略・人事制度に関する調査』をもとに—」。司会・コメンテータは、加藤里美氏（朝日大学）であった。若山氏が報告した調査によると企業の意識は、今後の業績に自信を持ち、経営方針は短期的視点から長期的視点重視へと転換する。人口減少社会における人材獲得や、ダイバーシティ化等への対応に意識が向いている。「成果貢献重視」がより鮮明になるが、「終身雇用重視—雇用流動化重視」、「ゼネラリスト育成重視—スペシャリスト育成重視」等、方向が企業により異なる項目も少なくなく、企業人事が個別最適化に向かうことを示唆している。さらに、人事は経営と一本化を進め、スピーディに経営戦略に対応する必要性、人材に関する戦略の再構築の必要性、組織力を早急に引き上げる必要性を認識している。以上の分析結果から、展望する2010年の企業人事は、①人口減少社会が引き金となる企業人事個別最適化のながれ。②『企業にも格差の時代』？『人事の格差』により企業間の格差拡大も。③具体策を早期に、戦略的に打っていく必要性が高まっていると報告された。

第二報告は、藤本善夫氏（愛知産業大学）「M&Aの経済効果：サーベーター買収規制と効率性を中心に—」。司会・コメンテータは、谷井 良氏（中京学院大学）であった。藤本氏は、M&A先進国である欧米の先行研究の検討と整理。および、日本におけるM&Aの方向性と課題の考察を行い報告された。先行研究の検討と整理では、①合併と買収防衛策・法規制の関係と、②効率性と市場支配力に焦点を当て、精緻な検討が行なわれた。それを踏まえて、敵対的＝感情的な議論に陥りやすい（日本的傾向）ゆえに、客観的かつ冷静な実証分析の蓄積が必要であると報告された。

何れの報告も、企業が抱える課題の根幹部分に関するテーマであり、フロアーの関心も高く、多くの質問が出され、活発な議論が戦わされた。

報告会の後、議事を終え懇親会が行なわれた。懇親会は、報告会に引き続き小椋康宏会長にもご出席賜り、終始和やかな雰囲気の中で、情報交換が行われ、有意義な一時をおくり散会となった。

### 本欄～会員の新刊著書を紹介します～

◎小島 大徳著『市民社会とコーポレート・ガバナンス』

文真堂、2007年11月、2,940円（税込）

◎海老澤 栄一編著『魅力ある経営 パラドックスの効用』

学文社、2007年10月、2,100円（税込）

◎小林 規威著『日本の国際化企業-国際化と経営パフォーマンスの関係性』

中央経済社、2007年5月、2,625円（税込）

※会員の皆様の新刊著書を広くご紹介して参りたいと思います。学会事務局まで情報をお寄せください。

## 韓国経営教育学会への派遣報告者募集

韓国経営教育学会 (Korean Association of Business Education) との「報告者交換プログラム」に基づき、以下のように派遣報告者を募集します。報告テーマは「経営教育」に限定されています。応募者多数の場合には委員会で選考させていただきます。

派遣先：韓国経営教育学会・2008年度春季国際学術発表大会

郡山大学 (KunSan National University)

大会日程：2008年4月25・26日 (派遣報告日：26日)

応募資格：本学会会員 (大学院生を除く)

応募方法：氏名、所属、報告テーマ、報告要旨 (日本語3000字以上) を郵送もしくはメールにて学会事務局まで提出ください。

締切日：2008年2月28日 (消印有効、メールの場合は16時まで有効)

その他：派遣報告者には旅費補助として3万円を支給します。

### 第11回産学交流シンポジウム (会場変更のお知らせ)

産学交流シンポジウム委員長

福田 昌義 (日本大学)

組織委員長 加藤 茂夫 (専修大学)

テーマ：「新日本型経営の模索－経営人材の育成と活用－」

日時：平成20年3月1日(土) 13:30～17:00

場所：立正大学 11号館 11階第5会議室 (東洋大学から変更)  
東京都品川区大崎 4-2-16 JR大崎駅・五反田駅から徒歩7分

参加費：会員(院生含)・一般は参加費 1000円

シンポジウムと懇親会に参加の場合 3000円

#### プログラム

1. 講演：お二人のゲストスピーカーを予定
2. 講演に関する質疑応答
3. 全体討議

懇親会場を立正大学外の近くに移動し、名刺交換等を行います。

ゲストスピーカーやそのテーマ等の具体的内容につきましてはパンフレットを作成し、学会のホームページ等でお知らせします。多くの方のご参加をお願いします。

機関誌投稿論文、日本経営教育学会山城賞および山城賞奨励賞、アメリカ経営学会経営教育部会への派遣報告者、韓国経営教育学会への派遣報告者のお申し込みやお問い合わせは事務局までお願いいたします。

### 編集後記

あけましておめでとうございます。会報249号をお届けいたします。研究成果のご発表等々、会員の皆さまには本学会へのご協力のほど、本年もよろしくごお願い申し上げます。

樋口弘夫・杉田あけみ

発行 日本経営教育学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4  
株式会社山城経営研究所 (担当：寿)  
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988  
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp  
URL: http://www.j-keieikyoku.jp/

印刷 ㈱フジヤマ印刷 〒03-3260-3801  
E-mail: fujiyama@mx7.ttcn.ne.jp